

新法1ヵ月

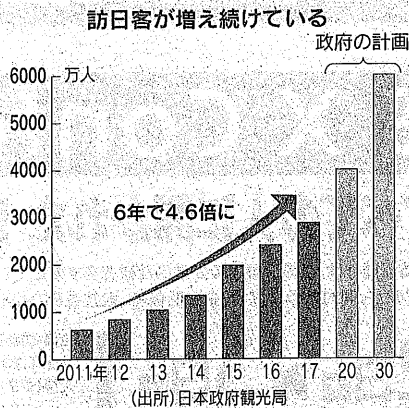
低調民泊、アイデア勝負

楽天の民泊事業子会社の楽天ライフルステイ(東京・千代田)は18日、寺院に泊まる「宿坊」の予約サービスを始めると発表した。住宅宿泊事業法(民泊新法)施行から1ヵ月だが、物件の届け出は低調。一般の個人宅だけではない個性的な施設の取り扱いを増やす狙い。益載を押しむなど体験サービスも広がり、訪日外国人の囲い込みに各社がアイデアで勝負する。

日本を訪れる外国人は、エアビーに脅まで載っていった6万2千件の1割弱にすぎない。この6年間で5倍近くまで急増している。その分、宿泊する需要も拡大を続けている。政府はさらに30年にかけて、訪日客を現在の2倍の6千万人まで増やす計画だ。

そのためには新規の顧客にとどまらず、リピーターをどう惹きつけるかが欠かせない。東京都や京都府を回っていた20代の中国人女性と言った。日本は5回目。有名な観光地だけでなく、いろいろな地方で今までと違った経験をしたい。

ただ、こうした訪日客を泊める受け皿は十分といえる状況ではない。6月15日に民泊新法が施行されたが、全国の届け出件数は7月6日時点で5397件にとどまってお



対象施設拡大 宿坊、年内100ヵ所 「体験」売りに 着物着付けや盆栽

ビジネス TODAY

18日から、楽天ライフルステイや同社と提携するオランダのフックンク・ドットコムなどのサイトを通過し、宿坊施設を予約できるようにする。施設は、和空が運営するサイト「テラハク」で扱っているものだ。楽天グループが、タブレット多機能携帯端末を使ったチェックインシステムや、事前に発行される暗証番号で解錠する電子錠を提供する。

また8月1日、大津市にある三井寺(圓城寺)の宿泊予約を始める。普通の寺院を新たに宿坊として改修する。年内に100ヵ所の施設を使えるようにする計画だ。現在の宿坊サービスは

旅館業法のもと、簡易宿所としての許可を得て営まれている。365日運営できるが、同法では住宅地での運営を認めていない。

民泊新法にもとづく運営にすると、人を泊められる期間が年180日に限られるが、住宅地で営める。楽天ライフルステイは、住宅地に数多くある寺院を民泊施設として取り込んでいる。

新しいサービスで予約できる施設は、宿泊して精進料理を食べ、実際に写経したり座禅を組んだりする。和空の田代社長は「宗派ごとの体験イベントを用意して楽しんでもらえるようにしたい」と話す。和空は、民泊仲介世界最大手の米工アビアンディーへの掲載を希望する宿坊の支援も手掛けている。

楽天ライフルステイは6月に開いた民泊仲介サイト「パッケージョンスティ」で、届け出手続き中



宿坊施設「和空三井寺」の予約受け付けを来月1日から始める。写真は客室(大津市)

(大西綾、大林広樹)